慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	明治前期一枚刷資料の漢語：『早見漢語便覧』を中心に
Sub Title	Kango vocabulary in the early Meiji era that is shown on Banuzuke style poster : mainly from Hayami kango binran 明治前期一枚刷資料の漢語：『早見漢語便覧』を中心に
Author	木村, 義之(Kimura, Yoshiyuki)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2022
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.123, No.1 (2022. 12) ,p.161 (68)- 177 (52)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	屋名池誠教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01230001-0161

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

明治前期一枚刷資料の漢語
―『早見漢語便覧』を中心に―

木村　義之

1. はじめに

本稿は、明治前期に発行された一枚刷の漢語一覧表である、『早見漢語便覧』に掲げられた漢語を中心に、明治前期の漢語をどのように位置づけるかを模索しようとするものである。池上禎造（1957）で漢語流行の一時期と称された明治前期には、多くの漢語が使用されるようになり、この時期に陸続刊行された漢語辞書は、新語辞書としても位置づけられ、当時の太政官日誌、新聞、布令などから単語を採取して編まれたことが松井利彦（1990）らによって明らかにされ、漢語辞書群の調査には今野真二（2013）などがある。そのような漢語辞書群のほかに、漢語を多用する世相を背景とした娯楽的印刷物を番付に見立てた一枚刷の資料がある。各分野の見立番付は社会の流行や世相の反映として大衆に迎えられた[1]。これらは厳密な考証を経た結果選定し、序列をつけたものとは言いがたいが、読者の納得が得られる程度には事項の扱いを考慮したものと考えられる。そこで、架蔵の『早見漢語便覧』を中心に、当期の主要な漢語辞書や国語辞書との照合することによって、それぞれの語がどのように扱われ、番付に掲げられた漢語の供給源がどのような文献に拠っているのかを検討してみたい。

2.『早見漢語便覧』の概要と研究の目的

『早見漢語便覧』（以下、『便覧』と略）については、広田栄太郎（1970）が、自身の架蔵資料として全体を複写して公開し、以下のように内容を紹介している。

「文明開化」「僕」「貴君」「我輩」などをはじめ、明治初年流行の新しい漢

語を取り上げて格づけし、一枚刷りにしたところに興味ふかいものがある。発行年月はわからないが、「戸籍」という語や、欄外の大小区制などから考えて、明治四年から十一年までの間に、大阪で出版されたものであろう。文明開化期における言語風俗の資料として役だてば幸いである。

写真から、筆者架蔵のものと同じ刷りだと判断される。また、松井利彦（1997b）の「近代漢語辞書一覧」には一覧表として、一枚刷資料も含めて取り扱っているが、刊年が不明確なためか、『便覧』はみえない。そこで、架蔵資料をもとに、書誌的事項を補足をしておきたい。

寸法：縦52.2㎝（匡郭内44.0㎝）×横37.8㎝（匡郭内32.8㎝）

構成：匡郭は中心に4行どりの中軸。左右を7段ずつに区切り、最上段は10行、2段目は12行、3〜7段目は16行どりとする。ただし、相撲見立番付のように、中軸に「行司」などの役職表示はなく、左右の各段でも東西の「大関」「関脇」などの序列表示もなく、単語だけが並ぶ。〈番付〉とせず、〈便覧〉と命名したのもこの点にあると思われる。

版元：匡郭外の左下に、「大坂第二大区六小区心斎橋塩町四丁目角　前田喜兵衛板」とある。

刊記：不詳。ただし、版元の前田喜兵衛は、吉田（1974）によれば、明治11年時点で「大坂塩町通四丁目四」、明治12年時点では「芝町通四丁目四」とあるので、少なくとも明治11年以前に板行されたものと推定される[2]。

このような版面に213語が掲げる。「漢語」とあるが、このうち「我輩」はガハイと読んだ可能性はほとんどなく、唯一の混種語である[3]。「漢語」は漢字表記語の総称と解すべきかと考える。

中軸には上から４語、３語、３語、３語、５語が配される。それらを右→左の順にまとめ、上→下の段ごとに引用すると、「寄留 裁判 本月 碇泊」、「金穀 勉彊 猪幣（ママ）」、「陋習　方今　弊害」、「重大　会計　掲示」、「文明開化　僕」のようになる。１段あたりの語が少なければ、文字は大きく書かれ、文字の大きさは語の重要度を示していると思われる。そうした見方をすれば、「文明開化　僕」が最も時代を代表する語ととらえていたのではないかと思われる。また、３語の段は、中央にある「勉彊」、「方今」、「会計」が両脇の語に比べて字が大きく、これも編者の認識を表わしていると考えられる。

漢語の上には平仮名連綿体で読みが、漢語の下にはカタカナで簡潔な語釈が記されている。たとえば、「ぶんめいかいくわ　文明開化　クニガヒラケテヒトモヲヒ〳〵ハツメイニナル」「ぼく　僕　ワタクシ」といった体裁である。これがすべての語に共通した掲出形式である。

中軸の左右７段に別れた語も同じく最上段の10行から段が下るにしたがって行数が増え、文字も小さくなるため、番付に擬したとすれば、重要度は段が下るにしたがって低くなるはずである。ただし、どのような基準で重要度を判定したかについては不明である。そもそも、この一枚刷りの213語がどのように選定されたかの基準も明確ではなく、先行する漢語資料から編者の感覚に頼って、適宜抽出して配列したものと推測される。また、こうした遊戯性の高い刷り物は、松井が指摘するような新聞、布令などから語を採取したというよりも、当時活発に刊行された漢語辞書類を参考にしたという予測も立つ。それでは、こうした二次的、三次的資料の漢語を考察する意味はどこにあるのだろうか。

第一には、同時代の編者の目には伝統的漢語と新漢語[4]との違いが意識されていたと思われる。それは恣意的、感覚的な判断基準であるかもしれないが、目新しさを感じて採取したものと思われる。当時流行した「漢語都々逸」の存在なども娯楽性と新規性を重視する意識の反映であろう。この点、『便覧』に採取された語が、漢語辞書類、国語辞書類でどのように扱われていたのかを明らかにしたい。

第二に、明治期の漢語を対象とする個別語誌の研究では、佐藤亨（1986）や李漢燮（2010）のような先行研究を一覧できる文献目録、惣郷正明・飛田良文編（1986）のように明治期の辞書を資料とし、いわば「辞書の語釈による辞書」のような文献もあってそれぞれ利用価値も高い。一方で、松井栄一・松井利彦・土屋信一編（1995～95）では影印資料が公開され、その解題では多くの漢語辞書について相互の関連や影響関係が明らかにされているが、一枚刷資料の収録語は今後の検討課題とされている。

本稿はそれら資料群に埋もれた位置にある一枚刷り資料の漢語を、新漢語研究のサンプル語のように位置づけて検討することにより、今後、個別語誌の研究材料が見いだせないかということを意図したささやかな試みである。

3. 収録語の傾向

3.1　初出例の時期と中国文献の有無

まず、『便覧』の収録された語が、各種辞書において見出し語となっているかを調査する。その際、当該語の初出時期を知るために、『日本国語大辞典第2版』（以下、『日国』と略）で用例から初出時期を確認する。あわせて、初出例の次の用例の時期も確認する。初出と次出の時期に隔たりが大きければ大きいほど、古く存在した語に新しい意味を担わせた語となっている可能性を含む。また、初出と次出が接近していればいるほど、その時期に生まれた特徴的な語として位置づけられる可能性がある。複数のブランチがある場合は、『便覧』の語釈によって初出年代としたが、判断に迷う場合は古い年代を優先した。これらすべてを世紀で表現したが、一部に「室中（＝室町中期の意）」のように略記したものがある。

次に、『日国』にある中国文献の例の有無について調査する（◇：『日国』中国文献の例がある。×：中国文献の例がない。）。『日国』に中国文献の例がない場合は、『大漢和辞典　修訂版』でその有無を確認し、そこになければ、さらに『漢語大詞典』に用例を求め、中国側の時代を目安として、「明」「清」「民（＝中華民国）」などと略記した（『日国』に用例があり、その先の調査をしなかった語は'/'と記した）。こうした手順をふんだ結果、和製漢語の可能性を検討べき候補語が浮かび上がると考えたからである。

3.2　照合対象とした漢語・対訳・国語辞書

明治期漢語辞書については、松井利彦（1997a）による漢語辞書の系統を参考にしながら影響関係、刊行年など、大きく偏りのないように選定した。調査対象とした漢語辞書は、以下のとおりである（セミコロンの左が略）。

令：　荻田嘯『新令字解』1868（慶応4）
令2：荻田嘯『増補新令字解』1869（明治2）
誌：　岩崎茂美『日誌字解』1869（明治2）
類：　庄原謙吉『漢語字類』1869（明治2）
布：　知足『布令字弁七編』1872（明治5）
訳：　小川伊典『訳書字解』1875（明治8）
音：　萩原乙彦『音訓新聞字引』1875（明治8）
聞：　前田喜次郎『画入漢語/第一等　新聞字引』1877（明治10）

必：　村上快誠『必携熟字集』1879(明治12)

林：　山田美妙『新編漢語辞林』1904（明治37）

また、明治期の代表的な以下の対訳辞書、国語辞書は以下のとおり。

へ1：ヘボン『和英語林集成　初版』1867（慶応3）

へ2：『和英語林集成　再版』1872（明治5）

へ3：『和英語林集成　三版』1886（明治19)

い：高橋五郎『漢英対照いろは辞典』1888（明治21）

言海：大槻文彦『言海』1889～1891（明治22～24）

大辞：山田美妙『日本大辞書』1893（明治26）

以上の辞書をも合わせ見ることにより、各語の性格の一端を探るための表を作成した。

辞書の見出し語との照合結果は、次のように示した。

◎：『便覧』の漢字表記・読みが、辞書の見出し語と一致するものを指す。ただし、『便覧』の収録語のうち、明らかな誤りと思われるものは、個別に説明する。

○：『便覧』の漢字表記または読みが、辞書の見出し語とおおむね一致する。たとえば、読みが「せうほう」「シヤウホウ」、「じうだい」「ぢゅうだい」のような仮名遣いの違い、「欺謀」に「ギボウ」「キホウ」のような清濁の別が表記上異なるが、同一の語形を記していると判断されるもの、「凶」「兇」、「幷」「併」のように別字だが通用し合うものなどに付した。また、『便覧』に「因循」とあるが、「因循姑息」で立項されているような類もこの記号を付した。

▲：「運輸」に「ウンシユ」「ウンユ」、「平定」に「ヘイジヤウ」「ヘイテイ」、のように異なる漢字音で読み、語形の異なるもの、「ギボウ」を「欺謀」「欺罔」のように類義の漢字による語表記を行っているものなどに付した[5]。

―：立項そのものがないもの。

このような基準で整理した表を以下に示す。なお、異体字は通用字体に改めたが、「凶」「兇」や「付」「附」のように、本来別字であるものは、そのまま残した。仮名遣いは踊り字も含め、そのままとした。辞書に言及する場合は、略称を『　』で囲み、『音』のように記すこととする。

			日国2			大漢	大詞	漢語辞書										対訳辞書				国語辞書	
よみ	漢字	語釈	初	次	中			令	令2	誌	類	訳	布	音	聞	必	林	へ1	へ2	へ3	い	言海	大辞
あいまい	曖昧	ワカリニクイクラキコト	11c	14c	◇	／	／	—	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
あんどく	暗読	ソラヨミ	16c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	◎	—	—	◎	—	—	—	—	◎	—	—
いゆん	遺憾	ノコリヲヽシ	室中	17c	×	日	元	◎	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
いぎやう	偉業	スグレタルワザ	19c	19c	×	×	清	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	—	—
いつせん	一洗	ヒトナガシ	15c	16c	◇	／	／	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	—	◎	◎	—	—	—	◎	—	—
いつぱん	一般	ヒトツラ	10c	17c	◇	／	／	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
いにん	委任	モノヲマカス	14c	14c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	—	—	◎	◎	◎	◎
いんじゆん	因循	グズ〜〜	9c	11c	◇	／	／	○	○	◎	◎	—	○	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
うんゆ	運輸	ツミマワス	19c	19c	×	◇	／	—	◎	◎	▲	◎	◎	—	—	▲	▲	—	—	◎	▲	—	◎
かいたく	開拓	トチヲヒラク	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
かいぼう	解剖	ホトキワカツ	18c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
かういん	勾引	カドワカシ	10c	11c	◇	／	／	—	—	—	▲	▲	—	▲	◎	▲	▲	—	—	▲	▲	▲	▲
がうぶく	降伏	クダリフクス	8c	13c	◇	／	／	▲	▲	▲	▲	—	▲	—	◎	○	○	—	—	◎	▲	▲	▲
がうれい	号令	サシヅ	8c	10c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
がくかう	学校	ガクモンノケイコバ	8c	9c	◇	／	／	—	◎	◎	◎	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
かたん	荷担	ミカタ	16c	17c	◇	／	／	—	◎	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
がつし	合祀	アワシマツル	19c	19c	◇	／	／	—	—	◎	—	—	▲	—	◎	▲	▲	—	—	—	—	—	—
がつぺい	合并	アワス	19c	19c	◇	／	／	—	▲	—	—	—	▲	○	○	▲	○	—	—	○	○	○	○
がんぞう	贋造	ニセモノ	19c	19c	×	明	／	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	—	◎
かんちやう	間諜	シノビノモノ	8c	室中	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
かんぼう	姦謀	ワルダクミ	8c	14c	×	◇	／	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	—	▲	▲	◎
かんゐ	簡易	テガルク	室中	15c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
きうじよ	救助	スクヒタスケル	19c	19c	◇	◇	／	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
きうへい	旧弊	ワルキシクセ	10c	19c	×	日	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
きうらい	旧来	モトカラ	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
きうり	究理	リヲキワメル	13c	17c	◇	／	／	—	▲	▲	▲	◎	▲	—	▲	◎	◎	—	◎	◎	◎	▲	▲
きかい	器械	ドウグ	8c	8c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
きくん	貴君	キミ／アナタ	18c	19c	×	×	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎
きげん	期限	ニチゲン	8c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
きそく	規則	キマリ	14c	17c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
きぼう	欺謀	タバカル	—	—	×	×	—	—	▲	▲	—	—	—	—	◎	○	▲	—	—	—	▲	—	▲
きやうしゆく	恐縮	ヲソレイル	19c	19c	×	×	—	—	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
きりう	寄留	ヨリトゞマル	19c	19c	×	×	唐	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎	◎
ぎろん	議論	ギヲロンズル	15c	16c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ぎわく	疑惑	ウタカヒマドフ	10c	16c	◇	／	／	◎	◎	◎	—	—	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
きんこく	金穀	カネトザコクルイ	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	—	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
きんわう	勤王	キミニツトメル	9c	12c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ぐうとう	窃盗	ヌスビト	8c	8c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	▲	—	▲	▲	—	—	▲	▲	▲	▲
くはいぎ	会議	ヨリアフハウダン	18c	18c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
くはいけい	会計	カンジヨウ	18c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	○	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
くはいしや	会社	ヨリアヒノトコロ	19c	19c	×	×	日	—	—	—	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
くはいわ	会話	アフテハナス	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	▲	—	—	◎	◎	—	—
くはくせう	確証	シツカリトシタセウコ	19c	19c	×	日	明	◎	◎	○	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	—	—	◎	◎	—	—
くはくてい	確定	シツカリトキメル	19c	19c	×	×	宋	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
くはつけい	活計	ナリワヒ	10c	13c	◇	／	／	—	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
くはんかつ	管轄	シハイ	12c	19c	◇	／	／	—	◎	◎	◎	◎	○	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
くはんくわ	鰥寡	ヤモメ男　ヤマメ女	8c	12c	◇	／	／	—	○	○	—	—	—	—	◎	—	○	—	—	—	○	—	—
くはんけい	関係	アヅカリカヽワル	15c	17c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	○	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

くべつ	区別	マチ︶ニワケル	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ぐもう	愚蒙	ヲロカニクラシ	9c	12c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
くわへい	貨幣	カネタカラ	19c	19c	◇	／	／	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
けいせい	形勢	モヤウ	11c	11c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
けいはく	敬白	ツヽシンデマウス	11c	12c	◇	／	／	—	—	▲	◎	—	—	—	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
けいりつ	刑律	ヲトガメノキソク	12c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	—	—
けうと	凶徒	ワルキトモガラ	8c	8c	×	◇	／	—	—	—	○	◎	—	—	○	○	○	—	◎	◎	◎	◎	◎
けうふ	怯怖	ヲクビヨウモノ	19c	19c	×	×	—	◎	◎	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	—	—
けうゆ	教諭	ヲシエサトス	8c	10c	×	◇	／	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—
けうりき	協力	チカラヲアワス	19c	19c	×	×	宋	—	—	◎	—	▲	▲	▲	◎	▲	▲	—	—	▲	▲	▲	▲
けつじ	掲示	カヽゲシメス	18c	19c	×	◇	／	▲	▲	—	▲	▲	—	▲	◎	▲	▲	—	—	▲	▲	▲	▲
げつきう	月給	ツキ︶ノキウキン	15c	19c	◇	／	／	—	◎	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
けつだん	決断	キワ　メル	8c	13c	◇	／	／	◎	◎	○	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
けつてい	決定	キワメル	18c	19c	◇	／	／	▲	▲	▲	—	◎	—	◎	◎	—	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
けんきう	研究	ミキワメル	14c	17c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
けんけん	厳譴	キビシクツブス	18c	19c	◇	／	／	◎	◎	○	—	◎	○	—	○	◎	◎	—	—	—	◎	—	—
けんさ	検査	トリシラベル	19c	19c	×	▲	民国	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	○	—	—	◎	◎	◎	◎
こうさい	交際	ツキアイ	10c	17c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	○	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
こうぜん	公然	オモテムキ	18c	18c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
こうはい	興廃	ヲコリスタレル	7c	14c	◇	／	／	—	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
こさい	巨細	コトコマヤカ	11c	12c	×	◇	／	—	—	—	▲	—	◎	—	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
こせき	戸籍	イエカゾノチヨウタン	8c	8c	×	◇	／	—	—	—	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
こそく	姑息	イツスンノガレ	17c	17c	◇	／	／	—	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ごびう	誤謬	マチガヒ	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	◎	—	◎	▲	◎	—	—	▲	◎	◎	◎
こんぐはん	懇願	ネンゴロニネガフ	室近	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
さいきよ	載許	サバキ	10c	12c	◇	／	／	—	—	—	—	—	▲	—	—	▲	—	▲	▲	▲	▲	▲	▲
ざいくはん	在館	ウチニイル	—	—	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
さいてん	祭典	マツリノヲキテ	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
さいばん	裁判	サバキ	11c	14c	×	日	民国	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	—	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ざいゆう	在留	トゞマリアル	17c	18c	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ざつきよ	雑居	マセリイル	14c	17c	◇	／	／	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ざんぱう	讒謗	ソシル	14c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
しうくはい	集会	アツマリアフ	16C	17c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
しうしよ	衆庶	ミナ︶	8c	10c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
しうせん	周旋	メグリカケアルク	10c	11c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
じうだい	重大	ヲモキ	19c	19c	×	日	元	—	—	▲	—	—	▲	◎	◎	▲	—	—	—	—	—	○	○
しかい	市街	マチ	19c	19c	◇	／	／	—	—	◎	—	—	○	—	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	◎
じけん	事件	コトガラ	19c	19c	◇	清	／	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
じじつ	事実	ワケガラ	11c	17c～18c	◇	／	／	◎	◎	◎	○	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
しつさく	失策	シソコナヒ	18c	20c	◇	／	／	◎	◎	◎	—	◎	—	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	—	◎
じつち	実地	マコトノトコロ	16c	19c	×	×	明	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
しとう	至当	モツトモナルコト	18c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
じやうり	條理	スジミチ	16c	18c	◇	／	／	—	○	—	◎	—	○	◎	—	—	◎	—	—	—	◎	◎	◎
じやくくはん	弱冠	ハタチグライ	8c	12c	◇	／	／	—	—	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	—	—	—	—	◎	◎
しやざい	謝罪	ツミヲワビル	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
じゆくだん	熟談	ナルソウダン	16c	18c	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
しようふ	娼婦	オヤマ	18c	18c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	◎	◎	—	◎
しよくざい	贖罪	ツミヲアガナフ	10c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	—	—	◎	◎	▲	—	—	◎	◎	◎	◎
しりよ	思慮	フンベツ	9c	10c	◇	／	／	—	—	◎	—	◎	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
しんきん	慎謹	ツヽシム	11c	20c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	—

しんさく	神策	ヨキハカリコト	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	▲	▲	▲	◎	—	◎
じんじゆつ	仁恤	アハレミ	9c	19c	×	×	唐	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	—	—	—	—	—	—	—
じんそく	迅速	スミヤカ	17c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
せいだい	盛大	オホヒニサカン	13c	17c	◇	／	／	—	—	◎	—	—	—	◎	◎	◎	▲	◎	—	◎	◎	◎	◎
せいばつ	征伐	タバシウツ	8c	10c	◇	／	／	—	—	◎	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
せうさい	詳細	ツマビラカ	19c	19c	×	清	／	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	—	◎
せうしや	商社	アキンドナカマ	19c	19c	×	×	—	—	—	—	◎	◎	○	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
せうほう	商法	アキナヒノシカタ	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	—	◎	—	○	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
せつとく	説得	イヒツケル	13c	16c	×	日	明	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
せつゆ	説諭	トキサトス	19c	19c	◇	／	／	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
せんきよ	蟄居	ヒソミイル	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	◎	—	—	◎	◎	—	—	—	◎	—	◎
せんそう	戦争	タヽカヒ	18c	18c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
そうとく	総督	タイシヤウ	19c	19c	◇	／	／	—	◎	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
そくび	側微	イヤシキモノ	19c	19c	×	◇	／	◎	◎	◎	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	—
そくれう	測量	ミツモリ	18c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
そつこく	即刻	タバイマ	13c	16c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	—	—	▲	◎	◎	◎	▲	▲	▲
ぞんゐ	存意	コヽロノウチ	19c	19c	×	×	北魏	—	—	—	—	—	—	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
たいさい	体裁	カタチ	14c	15c	×	×	唐	—	—	—	—	—	—	▲	◎	▲	▲	—	—	▲	▲	▲	▲
たいてう	隊長	ソナエカシラ	9c	15c	◇	／	／	◎	◎	○	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
たいまん	怠慢	ヲコタル	8c	14c	◇	／	／	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
だじやく	懦弱	ヤクニタヽズ	11c	15c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	▲	—	◎	▲	◎	—	▲	▲	▲	◎	◎
だつさう	脱走	カケヲチ	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
だつせき	脱籍	ヌケル人ヘツ	19c	19c	×	×	明	—	—	◎	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
たんさく	探索	ヲンミツニサガスコト	18c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
だんぜん	断然	ヲモヒキル	19c	19c	×	清	／	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
だんぱん	談判	サウダン	19c	19c	×	×	民国	—	—	○	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
だんめつ	断滅	タエハテル	9c	14c	×	×	宋	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	—	—
ちうゐ	注意	コヽロツケル	19c	19c	◇	／	／	—	◎	—	◎	◎	○	▲	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎
ちこく	遅刻	オソナル	19c	19c	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	—	—	◎	◎
ちよへい	猪幣	カミノタカラ	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	—	○	◎	○	○	—	◎	◎	◎	◎	◎
ちんぎん	沈吟	シアン	8c	8c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
ちんさつ	珍察	ヨウダヒヲミル	室中	18c	◇	／	／	▲	▲	▲	—	▲	—	▲	○	▲	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ていしゆ	低首	カシラヲサゲル	19c	—	◇	／	／	—	—	—	—	—	◎	▲	◎	◎	◎	—	—	—	◎	—	◎
ていはく	碇泊	ヲキ中ニトマル	19c	19c	×	×	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
でんしう	伝習	ウツリナラフ	8c	11c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	—
でんせん	伝染	ウツル	18c	19c	◇	／	／	—	◎	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
でんもん	伝聞	ツタエキク	12c	12c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	▲	—	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
てんらん	展覧	ミクラベ	19c	19c	×	×	民国	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	▲	▲	▲	—	◎	—
とうき	騰貴	ネダンノアガルコト	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
とうぜん	当然	アタリマエ	14c	18c	◇	／	／	—	—	◎	—	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
どうめい	同盟	チカヒヲタテ	15c	室中	◇	／	／	—	—	◎	◎	◎	—	◎	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
とうよう	登庸	メシイダサレル	16c	18c	◇	◇	／	—	—	◎	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎
にうじゆく	入塾	ガクニスヽム	19c	19c	×	×	—	—	—	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
にんせん	任遷	ヒトヲエラム	19c	19c	×	×	清	◎	◎	○	—	◎	○	—	◎	◎	—	—	—	—	—	—	—
はいし	廃止	ヤメル	19c	19C	×	×	民国	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
はいしつ	廃疾	スタレモノ	8c	8c	◇	／	／	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	—	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ばうがい	妨害	サマタゲ	19c	19c	◇	◇	／	—	—	—	—	◎	—	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ばうきやく	忘却	ワスレル	9c	16c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	—	—	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
はうこん	方今	タバイマ	8c	10c	◇	／	／	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
はうさ	包差	ハチヲツヽム	—	—	×	▲	／	—	—	—	—	▲	▲	—	◎	▲	▲	—	—	—	—	—	—

はうち	報知	ツゲシラス	19c	19c	◇	／	／	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
はうゑき	貿易	カエニト	8c	9c	◇	／	／	◎	◎	—	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
ばくたい	莫大	ウエモナイ	12c	13c	◇	／	／	◎	◎	◎	▲	◎	▲	◎	—	◎	▲	◎	◎	◎	◎	▲	▲
はくらい	舶来	ワタリモノ	19c	19c	×	×	民国	—	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ばっきん	罰金	ツミヲツクナフカネ	室中	15c	◇	／	／	—	—	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	—	◎	◎
ばっくん	抜群	ヒトナミニスグレル	11c	12c	◇	／	／	—	—	—	—	—	▲	▲	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	—
はつけん	発顕	アラハレルコト	19c	20c	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	◎	—	—	—	—	◎	—	—
ばつけん	抜剣	カタナヌク	20c	20c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	—
はつぱい	発売	ウリヒロメ	19c	19c	×	×	元	—	—	—	—	◎	—	—	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
はつめい	発明	ミヒラク	11c	13c	◇	／	／	—	—	◎	◎	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
はんぜん	判然	ハツキリ	18c	19c	×	×	宋	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ひやくじ	百事	ナニニト	11c	15c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	—	—
ひりん	比隣	カゲ	—	—	×	▲	—	—	—	—	—	—	▲	—	▲	▲	▲	—	—	—	—	—	—
ひりん	比隣	キンジヨ	18c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ひゑき	稗益	タスケマス	19c	19c	◇	／	／	—	▲	—	▲	—	▲	◎	◎	▲	▲	—	—	▲	▲	▲	▲
ひんぜん	憫然	ウレフル	13c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	○	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ふかう	符号	ヨクアフ	19c	19c	×	×	清	—	—	—	◎	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ふくこ	復古	ムカシニカエル	18c	18c	◇	／	／	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	▲	▲
ふくざい	伏罪	ツミニフクス	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	—	—	—	—	◎	—
ふさい	負債	カリカネ	8c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	—	◎	▲	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ふせつ	浮説	トリトメヌハナシ	10c	14c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	—	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	—
ふぞく	附属	ツキシタガフ	7c	10c	◇	／	／	—	—	◎	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
ふつとう	沸騰	フキアガル	19c	19c	◇	／	／	—	—	◎	◎	◎	▲	—	◎	◎	▲	—	◎	◎	◎	◎	◎
ふはい	腐敗	クサル	8c	19c	×	◇	／	—	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ぶらい	無頼	アブレモノ	9c	11c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	▲	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ふんばつ	奮発	ゲンキヲタシヤツキトナル	15c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	—	—	—	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ぶんめいゆうわ	文明開化	クニガヒラケテヒトモヲヒ〳〵ハツメイニナル	19c	19c	×	×	—	—	—	—	—	◎	◎	—	—	◎	—	—	—	—	◎	—	—
へいがい	弊害	ツイエソコナフ	19c	20c	×	×	清	—	—	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
へいじやう	平定	ツネニサダマル	19c	19c	×	×	唐	—	—	▲	▲	◎	—	—	—	▲	▲	—	—	—	▲	◎	◎
へいたん	兵端	イクサノサキ	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
へきろん	僻論	フリクツ	19c	19c	×	×	民国	◎	◎	◎	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	—	—
べんかい	弁解	イヒワケ	18c	19c	◇	／	／	—	◎	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎
へんかく	変革	カハリアラタマル	19c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	◎	—	—	◎	◎	◎	◎		—	◎	◎
べんきやう	勉強	ツヨクセイヲダス	—	—	×	◇	／	—	—	—	◎	▲	▲	▲	◎	◎	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
へんぱ	偏頗	カタヨル	10c	12c	◇	／	／	—	◎	—	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
べんれい	勉励	ツトメハゲム	9c	19c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	◎	—	—	◎	◎	—	—	—	◎	—	◎
ほうくはん	奉遵	カヘシタテマツル	19c	19c	×	×	民国	—	—	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	—	—
ほうしゅ	奉守	ウケマモル	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	—	—	—
ほうとう	放蕩	ノラ	8c	室中	◇	／	／	—	—	◎	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ぼく	僕	ワタクシ	18c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ぼつき	勃起	ムクトスル	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	—	—
ほばう	捕亡	カケヲチモノヲトラエル	8c	19c	◇	／	／	—	◎	◎	—	◎	▲	—	◎	—	—	—	—	—	—	◎	◎
ほんげつ	本月	コノツキ	19c	19c	×	清	／	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	—	◎	—	—
まいきよ	枚挙	カゾエル	14c	15c	◇	／	／	▲	▲	—	—	◎	◎	▲	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎
まいそう	埋葬	シニンヲオサムル	8c	19c	◇	／	／	—	—	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
もうせつ	妄説	ミダリノサタ	12c	15c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
もうまい	盲昧	モンモウ	—	—	×	×	明	—	—	—	▲	◎	▲	—	◎	◎	▲	—	—	—	—	—	—
もくてき	目的	メアテ	19c	19c	×	×	民国	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎
ようがく	洋学	セイヨウガクモン	19c	19c	×	×	清	◎	◎	◎	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	◎	—	—

らいち	畠地	アマルトチ	室近	17c	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	—	—	—
らくせい	落成	デキアガリ	室中	17c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
らんぼう	乱暴	アバレル	19c	19c	×	×	民国	—	—	▲	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	▲	▲	▲	◎	◎	◎
りかい	理解	ワケヲツケル	18c	19c	◇	／	／	—	—	—	◎	◎	—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
りやうかい	了解	ハツキリトワカル	18c	19c	×	南宋	／	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
りよゑい	旅営	タビノヤドリ	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	—
りれき	履歴	コレマテノシダイカラ	17c	17c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	—
りん＊せい	釐正	タヾシ	18c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	—	—	—
るみん	流民	ヤドナシ	14c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	◎	—	—	▲	▲	▲	—	—	▲	▲	▲	▲
れつせき	列席	セキニツラナル	19c	19c	◇	／	／	—	—	—	—	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ろうしう	陋習	イヤシキナラハセ	18c	19c	×	日	宋	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
ろしゆく	露宿	ヤドナシノタビ	室中	19c	◇	／	／	—	—	—	◎	—	◎	—	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	—
ろんぱ	論破	ロンジツケル	18c	19c	×	×	—	—	—	—	◎	◎	▲	—	—	◎	◎	—	—	◎	◎	◎	◎
わがはい	我輩	ワタクシ	15c	18c	×	◇	／	—	—	—	—	—	—	▲	—	—	—	—	—	◎	◎	◎	◎
わしん	和親	ナカヨシ	12c	14c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	—	○	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
をふせつ	応接	アイタイ	室中	18c	◇	／	／	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	▲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

3.3 『便覧』収録語の問題点

3.3.1 文字の誤認

『便覧』収録語を検討するはじめに、明らかに編者の誤認と思われるものを指摘しておこう。このことは、漢語辞書との影響関係を知る手がかりともなりそうだからである。

まず、漢字部首の誤認関する例、「かういん　匂引」「ちよへい　猪幣」「はうさ　包差」であろう。すなわち、「匂：勾」「猪：楮」「差：羞」における誤認である。各種辞書で確認すると、〈こういん〉で「匂」字で表記するものは『聞』のみで、『へ3』『い』で「拘」字が用いられる以外は、すべて「勾」字を用いている。「猪」字は『訳』『聞』以外はすべて「楮」字とする。これらは誤認と言っても珍しいものではないが、「はうさ　包差」に関しては漢字の誤認によって「ほうしゅう　包羞」となるはずの語形も誤って掲出したことは、編者の文字認識に対する不審を募らせる例であろう。しかし、この誤字と一致する漢語辞書が唯一『聞』だけに見られる。『便覧』で平仮名の誤読と考えられる例として、「ぐうとう（→せっとう）　窃盗」これを『聞』で確認すると、「窃盗」は立項されていないが、『便覧』で「ひいん」とする「比蔭」は、『聞』で「ひいん」となっているから、「い」字を「り」字にとり違えたのは『便覧』のほうであろう[6]。両者の関係を強く疑わせる材料となっている。

「さいきよ　載許」「たいさい　体載」も一般的には「載」字ではなく「裁」字であろうが、辞書類では『聞』だけが「載」字である。「タイサイ」について各

辞書で見ると、▲とあるように、漢字音としては「タイサイ・テイサイ」で各辞書の扱いは異なるものの、漢字はすべて「裁」字である[7]。

「ちんさつ　珍察」などは、言偏と玉偏の誤読によって「珍」字と誤読したものだろうか。『聞』では「しんさつ　珍察」と読みは正しくなっているので、むしろ『便覧』が「珍」字を正しく読んでいることは皮肉めいた事象である。

「ひえき　稗益」も多くの漢語辞書、国語辞書で本来の「裨」字を用いている中、『音』『聞』が「稗」字に一致している。唯一『へ３』は「脾」字で他とは異なる傾向を示す。

このように、誤認と思われる部分が多く一致する漢語辞書が『聞』であることは、『便覧』の成立の背景と関係が濃厚に疑われる。『聞』は辞書体資料ではあるが、語の掲出方法が『便覧』と同じく「平仮名による漢語の読み　漢字表記　片仮名による語釈」という点で同じであることも見逃せない。「べんきょう」を他の辞書がほとんど「勉強」とする中で「勉彊」と表記し、挿絵を添えるほどの扱いであること、なども『便覧』の中軸に「勉彊」が据えられる意識と通底するように思われる。

さらには、『便覧』の中に、誤読とは言えないまでも訛語、方言と思われる語が見える。作成した土地が関係するのであろうか。「ちこく 遅刻 オソナル」「りんせい 釐正 タヾシ」の2語である。「遅刻」の語釈に「オソナル」とあり、「釐正」の読みは『日国』でも「りせい」としている。「釐」を「りん」と解釈するのは、単位の「厘」に通じて用いることがあるからと考えられる。「釐正」は口語化した用法が確認できなかったので、類推音の可能性もある。いずれも確実なことは言えないが、『便覧』の作成者の背景を推測する材料にはなるだろう[8]。

3.3.2 『日国』未立項の語

先に取り上げた「比蔭」は「庇蔭」ならば『日国』に立項されているので『便覧』の側の誤記であろう。一方、「勉彊」「包羞（←包差）」は『大漢和』に熟語としてそれぞれ、『漢書』、『易経』の例とともに立項されているが、『日国』に立項されていない。『便覧』はどのような観点からこれらを採用したのか、疑問が残る。特に「包羞」は明治期の国語辞書でも立項されないが、複数の漢語辞書では立項される。漢語辞書間に見られる語の継承に原因があるのだとすれば、初期の漢語辞書群が拠った文献の性格が『便覧』にも残った可能性がある。

これらのほかには「きばう 欺謀」「ざいくはん 在館」「もうまい 盲昧」「りよ

ゑい 旅営」が『日国』に立項されていない語である。

「在館」のように、「在〜」を語構成要素として記述すれば足りるため立項の必要性は低いと判断される語は、他の漢語辞書でも見えない。

「欺謀」は『大漢和』、『漢語大詞典』（以下、『大詞典』と略）にも見えず、漢語辞書では2万語弱規模の『必』に見える程度で、他の漢語辞書は「欺罔」に「キバウ」の読みを与えるものがほとんどである。そうした状況の中で、やはり『聞』には『便覧』と同一の用字と読みが見える。ここでも『聞』と『便覧』との関係が強さがうかがい知れる。

「盲昧」は一般的に「蒙昧」を用いることが多いが、『大漢和』では熟語として立項されるが用例はない。『大詞典』では明の張居正に典拠として掲げる。漢語辞書類では一部「バウマイ」の読みを与えるものも見えるが、『便覧』と同じ扱いで掲げるものが多い。国語辞書類には見えない語で、明代の漢語は日本側の辞書にとってエアポケットとなっていることをうかがわせる。

「旅営」は『便覧』のほかに『聞』だけに見えるが、これまで検証した両者の関係からすれば当然かと思う。そもそも『聞』はその序に、

> 日々新聞四方に広がり漢語日増に応答に遣ふ当今時行の期に当りて幼童も習称世に普けども戦争事件の文字に於ては児婦もまだ看ぬ語も有べしとて今般皆至当の漢語を抜（ママ）韓して題して新聞字引と称号し追々皆領事の語を選み出し（以下略）

とみえるように、軍事関係の語を収集することを企図した旨が記される[9]。「旅営」の場合もそうした背景が関係したものと思われる。ただ、この語は『大詞典』にも見えず、漢語辞書に見える点で特徴的な語である。明治初期の用例としては、以下の兵部省『海陸軍刑律』（1871（明治4）年8月）に見えるように、軍事用語としての用法が主だったからだろう（用例の下ルビは原典縦書きの左ルビを表す）。

> 其距離ヲ野営屯戍旅営等ヲ処ニ在テハ、本営ヨリ、碇泊（フナカヽリ）ノ処ニ在テハ。本艦ヨリ算ス、（第二十六条）
>
> 凡野営、旅営、若クハ敵ト相持スルノ処ニ在テ、該部（ソノシハイノ）司令官ノ定タル営後ノ経線ヲ越ヘテ、（第百二十一条）

上に見える「刑律」「碇泊」も漢語辞書類に多くあり『便覧』にも反映されるが、こうした当時の軍の法規に関する用語から採用したと考えられる。明治中期

の新聞記事には、

さるほどに君は駿府に到着して、伝馬町の或る家を旅営とせる大総督府の参謀西郷吉之助の許に参りて面謁を求めたるに

「東京日日新聞」1888（明治21）年7月24日

とあって、明治後期の漢和辞典でも熟語としての立項が見える。

旅営　軍隊の陣所　内海弘蔵（1909）『新漢和辞典』.

（旅営）野陣　郁文舎編輯所（1910）『漢和大辞林』

〔旅営〕リヨエイ　野陣。 古川喜九郎（1910）『熟語集成漢和大辞典』

［旅営］リヨエイ　露營のこと、野天など同じ。 中村徳五郎（1913）『熟語詳解　新註漢和大辞典』

旅営　野営を云ふ。 上田万年他（1917）『大字典』

「露宿」なども同様に軍隊関係の語から『便覧』に入り込んだものと推測される。

3.3.3　字音の異同

次に、『便覧』が掲げる漢語の字音を中心に見たとき、読みが現代語と異なっていたり、当時の辞書類との差が著しい例を取り上げる。漢音・呉音・慣用音の判定については、主に『新選漢和辞典Web版』（Japan Knowledge）により、呉音・慣用音の判定ではさらに『大漢和』『角川大字源』を参考にした。

以下、グループごとに『便覧』に見える漢語を‘：’の左側に掲げ、右側に各辞書でどのように扱われているかをコメントするかたちでその様相をまとめて記述しておきたい（見出し語がひらがな、ローマ字でも片仮名に統一した）。

（1）漢・漢：漢・呉

・敬白（ケイハク）：『誌』のみ「ケイビヤク」とする。

・決定（ケツテイ）：『令』『令２』『誌』で「ケツジヨウ」とする。

・莫大（バクタイ）：『類』『林』で「バクダイ」、『言海』『大辞』でも「バクダイ」とする。漢語辞書では「バクタイ」が多く、『へ１～３』『い』でも「バクタイ」で立項する。『布』のみ「莫太」を当てて「バクタイ」とする。

（2）漢・漢：呉・漢

・贖罪（シヨクザイ）：『林』で「ゾクザイ」とし、『言海』は「ショクザイ」の立項はあるが「ゾクザイ」に送っている。『日国』では用例を掲げず、『言海』に見えることを示す。ただし、『新選漢和』『大字源』には「ゾク」の音

を掲げず、『大漢和』で「ゾク」呉音とする。ここでは『大漢和』の判断にしたがった。

・神策（シンサク）：『へ１～３』のみが「ジンサク」とする。

・無頼（ブライ）：『必』のみ「ムライ」とする。

(3) 漢・漢：その他

・懦弱（ダジヤク）：『必』のみ「ジユジヤク」とする。『新選漢和』では「ジュ」音を掲げないが、『大漢和』『大字源』では「ジュ」を漢音とする。

・即刻（ソッコク）：『林』と『い』『言海』『大辞』は「ソクコク」と促音化しない形で立項。『へ１～３』は促音化した「ソッコク」で立項する。

・誤謬（ゴビウ）：本来、漢・漢であるが、『必』で「ゴビヤウ」、『へ３』で「ゴビョウ」となる。『新選漢和』『大漢和』『大字源』で「ビョウ」の音を掲げていないので、訛形であろうか。

(4) 漢・呉：漢・漢

・協力（ケウリキ）：『訳』『布』で「ケウリヨク」、『音』で「キヨウリヨク」、『必』『林』『い』『言海』『大辞』で「ケフリヨク」、『へ３』で「キョウリョク」と仮名遣いは異なるが、漢・漢となる。『聞』のみ「ケウリキ」とし、『便覧』と一致する。

・盛大（セイダイ）：『林』のみ「セイタイ」とする。

・平定（ヘイジヤウ）：『誌』『類』『必』『林』『い』で「ヘイテイ」とする。『言海』『大辞』では「ヘイヂヤウ」。

・掲示（ケツジ）：この語の読みはやや入り組んでいる[10]。『令』『令２』『類』『訳』『音』『必』『林』で「ケイジ」とあり、「ケイ」が慣用音、「ジ」が呉音の組み合わせとなる。『へ3』『い』『言海』は「ケイシ」で、慣・漢とする。『大辞』は「ケイシ」「ケイジ」の両方を立項し、「ケイジ」の語釈では「前ノ転」と扱う。『聞』は「ケツジ」で『便覧』に一致。

(5) 呉・呉：漢・呉

・巨細（コサイ）：『類』『必』で「キヨサイ」。

・盲昧（モウマイ）：『類』『布』で「バウマイ」。『林』では「バウマイ」とするが、親字の注釈に「マウトモヨム」とある。

・流民（ルミン）：　『聞』『必』『林』『い』『言海』『大辞』で「リウミン」とする。『へ３』は「リュウミン」。『訳』のみ「ルミン」。

(6) 呉・呉：呉・漢

・存意（ゾンイ）：『林』のみ「ソンイ」。立項してある辞書ではすべて「ゾンイ」。ただし、『へ１～２』では「ZON-I,ゾンイ,雑意,*n*. Mind.opinion,sentiments,thoughts. Syn.ZOMBUN.」と「雑意」を充てるが、『へ３』では「ZON-I,ゾンイ,存意,n. Mind.opinion,sentiments,thoughts. Syn.ZOMBUN. OMOIRI.」と「存意」に修正される。

・伝聞（デンモン）：『音』『必』『林』『へ１～３』『い』『言海』『大辞』で「デンブン」。

(7) 呉・呉：その他

・降伏（ガウブク）：降伏（カウブク）：この語の字音の組み合わせも多様である。『令』『令２』『類』『布』は「カウフク」で漢・漢、『誌』は「ガウフク」で呉・漢、『い』は「カウブク」で漢・呉、『言海』『大辞』は「カウフク」漢・漢、「ガウブク」呉・呉の両方を立項する。

(8) 呉・漢：漢・漢

・枚挙（マイキヨ）：『令』『令２』『音』『林』は「バイキョ」。『へ2～3』『い』では「バイキョ」「マイキョ」の両方を立項。『言海』『大辞』は「マイキヨ」とする。

(9) 慣用音を含む漢語の音交替

・合祀（ガツシ）：『便覧』の「ガツシ」は『新選漢和』で判定で慣・漢とするが、『布』の「ガフシ」、『必』『林』の「ガウシ」は呉・漢と判定する。しかし、「ガフ」については『大漢和』『大字源』で慣としており、判断にゆれがある点で問題が残る。

・重大（ジウダイ）：『便覧』の「ジウダイ」は『新選漢和』で呉・呉と判定する。しかし、また『言海』『大辞』は「ヂュウダイ」で同じ字音として扱うことができる。ただし、『大漢和』『大字源』では「ジュウ」を慣と判定し、判断がゆれる。この「ジウダイ」が『誌』で「チヤウダイ」、『布』『必』では「チヨウダイ」として漢・呉となる。

・抜群（バツクン）：『便覧』の「バツクン」は慣・漢だが、『布』『音』『林』では「バツグン」で慣・呉、『へ1～3』『い』『言海』も「バックン」で『便覧』に一致する。『大辞』は立項していない。

・応接（ヲフセツ）：『便覧』では呉・慣の組み合わせだが、『聞』のみ「ヲウゼ

ツ」と連濁した語形を掲げる。

これらを観察すると、漢語辞書の系列と、それ以外の対訳辞書、国語辞書の系列で傾向が異なる傾向が見えることに気づく。また、『便覧』と『聞』の関係の強さも疑われる。

4　おわりに

『早見漢語便覧』の漢語について、諸辞書の立項状況をはじめとする扱いと対比させながら観察してきた。もちろん、『早見』が明治初期の漢語について、代表性を持つ資料だということではないが、漢語流行の時期における実態のごく一端を観察する、いわばサンプリング調査のような検討を行った。語釈については検討する余裕がなかったが、漢語辞書の語釈の検討にも『早見』が使用できるかどうか、今後の課題としたい。

註

1　林・芳賀編（1973）、青木編（2009）など、近世、近代の一枚物の番付を集成したものや、20世紀初頭の雑誌付録、原田編・谷脇画（1931）のように、当初から娯楽性を求めた冊子体で刊行された見立番付集成も見られる。

2　早稲田大学図書館蔵の前田喜兵衛「当世あほとかしこ見立相撲」では「明治十二年大新板」とあるが、所在地は「大坂船場心斎橋筋塩町角」とあるが、ホームページ上の内容記述には年代を「明治11年3月」と記すので、吉田(1974）の記述とあわせると、やはり明治11年以前の板行と思われる。

3　『日本国語大辞典　第２版』『大漢和辞典　修訂版』でも「わがはい」以外の読みを与えていない。

4　ここで言う新漢語は、幕末～明治初期に使用された漢語という広い意味で用いる。

5　『大漢和』『大詞典』に▲とあるものは、「撿査」の「撿」字が「検」字で立項、「珍察」が「診察」で、「包差」が「包羞」で、「比蔭」が「庇蔭」で、それぞれ立項されることを示す。

6　漢語としては「庇蔭」が一般的なようである。

7　「裁判」では『必』のみ「サイハン」とする。

8　これとは別レベルだが、「復古」が『言海』『大辞』で「復故」を採用し、『い』は「わうせいふくこ」で「王政復故」とするが、「ふくこ」単独だと「復古」「復故」

を別見出しとして立てている。『へ３』で復古」「復故」の両方を掲げていることと関連するか。

9　表紙には「激戦　陸軍　発射　軍艦　開戦　篭城　苦戦　海軍　砲声　旅団　凱陣　民権」の語が並ぶ。

10　松井（1990）「明治初期の漢字音」（pp313～314）で、「掲示」に言及する。

参考文献

青木美智男編（2009）『決定版番付集成』柏書房

池上禎造（1957）「漢語流行の一時期」「国語国文」26-6：『漢語研究の構想』（1984、岩波書店）所収

李漢燮編（2010）『近代漢語研究文献目録』東京堂

尾崎雄二郎・都留春雄・西岡 弘・山田勝美・山田俊雄編（1992）『角川大字源』角川書店

小林信明編（2018）『新選漢和辞典　第8版』小学館（Japan Knowledge版）

今野真二（2013）『明治期の辞書 (日本語学講座 6)』清文堂

佐藤亨（1986）『幕末・明治初期語彙の研究』桜楓社

日本国語大辞典編集委員会編（2000～2001）『日本国語大辞典　第2版』小学館（Japan Knowledge版）

林英夫,・芳賀登編（1973）『番付集成　上・下』柏書房

原田常治編・谷脇素文画（1931）『川柳漫画と番附いろいろ社会百面相』大日本雄弁会講談社

広田栄太郎（1970）「早見漢語便覧〔縮写複製〕」「大妻国文」1

松井栄一（1993）「現代語研究のために -- 明治期以降の著作物のテキストについて」「国語と国文学」70-10

松井栄一・松井利彦・土屋信一編（1995～95）『明治期漢語辞書大系1～65』

松井利彦（1990）『近代漢語辞書の成立と展開』笠間書院

松井利彦（1997a）「明治期漢語辞書の諸相」『明治期漢語辞書大系 別巻３』大空社

松井利彦（1997b）「近代漢語辞書の基準」「京都府立大学学術報告　人文・社会」49

諸橋轍次・鎌田正・米山寅太郎編（1986）『大漢和辞典　修訂版』大修館書店

羅竹風主編（1986～1994）『漢語大詞典』漢語大詞典出版社

なお、アーカイブスとして、国立国会図書館デジタルコレクション（https://dl.ndl.go.jp/）、明治学院大学図書館デジタル和英語林集成（https://mgda.meijigakuin.ac.jp/waei/search）を使用した。また、データベースとして、Japanese pre-modern dictionaries 日本近代辞書・字書集（https://www.joao-roiz.jp/JPDICT/DB）を参考にした。